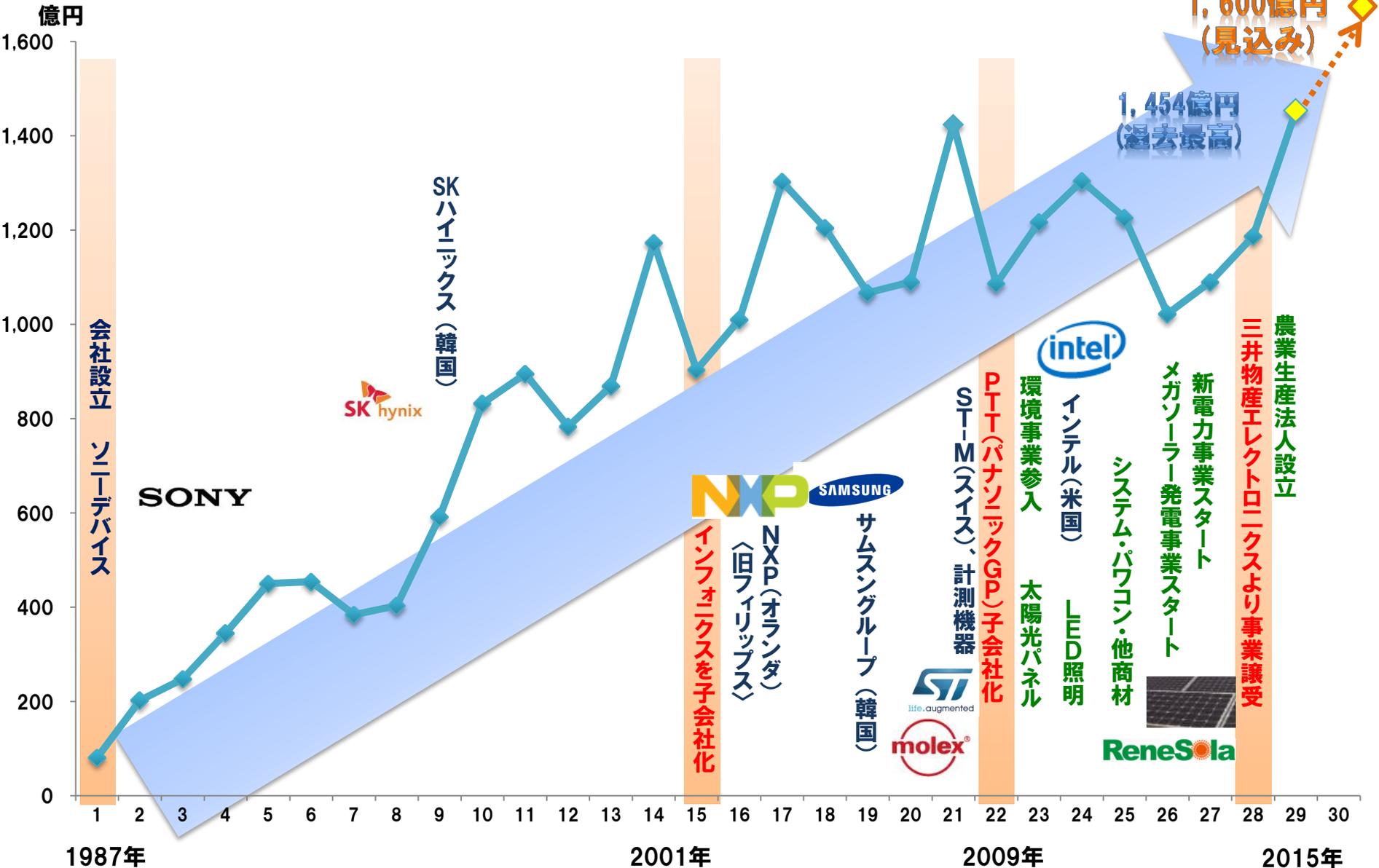


株式会社バイテックホールディングス
2016年3月期決算説明資料

創業時からの連結売上高推移



直近1年間のニュース・トピックス



年・月		トピックス
2015年度	5月	GaNシステム社 代理店契約
	6月	監査等委員会設置会社へ移行
	8月	増配発表
	10月	持株会社体制への移行
		V-Lowマルチメディア放送事業へ参画 アマネク社との資本提携
	11月	Telit代理店契約
		指紋認証モジュールの販売開始
		特別高圧7MW稼働(兵庫県三田市)
	12月	特別高圧21MW稼働(岩手県滝沢市)
		野菜販売専門会社設立
1月	TWPGの連結子会社化	
3月	アマネク放送の防災ラジオ開発	
	NTTドコモ等4社共同開発製品発表会	
	韓国事務所 法人化	
2016年度	4月	PTT パナソニックの資本参加
		植物工場の竣工(秋田県大館市)
	5月	テクノアルファとの業務提携



経営



デバイス



環境

2016年3月期決算概要と 2017年3月期の見通し

2016年3月期セグメント別売上高・営業利益

単位:百万円

		2015/3月期	2016/3月期	前期比
デバイス ビジネスGP	売上高	108,274	136,719	126.3%
	営業利益	1,789	1,568	87.6%
	(営業利益率)	(1.7%)	(1.1%)	-
環境・エネルギー ビジネスGP	売上高	10,429	8,696	83.4%
	営業利益	644	892	138.5%
	(営業利益率)	(6.2%)	(10.3%)	-
連結売上高		118,703	145,415	122.5%
営業利益		2,434	2,461	101.1%

➤ 前期は売上高1,454億円、営業利益24億円、当期利益12億円

➤ デバイス事業

- ・車載用半導体、PC用CPU・ドッキングステーションの売上拡大、新規製品指紋センサー、調達ビジネスも順調に拡大。
- ・V-lowマルチメディア放送への資本参画(多彩な技術サービスを提供)

➤ 環境エネルギー事業

- ・パネル生産から撤退等の影響で全体売上については若干減少。特別高圧の稼働、新電力の進展等によって、メガソーラー(売電)関連は売上・利益ともに伸長。
- ・営業利益率は10.3%の高い利益率、全営業利益に占める割合が36%の利益貢献(売上構成比は約6.0%)。

2016年3月期 貸借対照表



単位:百万円

科目	前前期末 2015年3月31日	前期末 2016年3月31日
資産の部		
流動資産	40,508	42,173
固定資産	15,952	18,698
有形固定資産	12,588	15,668
無形固定資産	304	807
投資その他の資産	3,058	2,222
資産合計	56,460	60,871
負債の部		
流動負債	32,684	33,684
固定負債	10,618	13,821
負債合計	43,303	47,505
純資産の部		
株主資本	12,526	13,209
その他の包括利益累計額	628	35
少数株主持分	1	120
純資産合計	13,157	13,365
負債純資産合計	56,460	60,871

資産合計:60,871(前期末比+4,411)。
主に売掛金、リース資産等の増加による。

負債合計:47,505(前期末比+4,202)。
短期借入金及びリース債務増加が主要因。

純資産合計:13,365(前期末比+208)。
主に株主資本の増加による。

自己資本比率:前期21.8%(前前期23.3%から1.5%低下)

2017年3月期 連結決算の見通し



単位:百万円

	2016/3期 (実績)	2017/3期 (通期予想)	前期比
売上高	145,415	160,000	110.0%
営業利益	2,461	2,800	113.8%
経常利益	1,867	2,200	117.8%
当期純利益	1,243	1,800	144.8%

- 今期業績見通しは売上高1,600億円、営業利益28億円、当期利益18億円
- デバイス事業 — 新規分野での売上増加、調達事業の伸長。
- 技術サポート体制の強化と付加価値の拡大(車載・通信向け等)。
- 環境事業 — 太陽光発電の売電収入増加と新電力事業の拡大による収益貢献。
- 植物工場の稼働、販売会社(VVF)による農業ビジネスの進展。

<積極的な利益還元>

①成長投資と株主・社員還元のバランス

②配当性向30%以上(目標)

今期年間配当予想:50円(中間25円、期末25円)

- 自己資本の充実、財務体質の強化
純資産規模 150億円相当(目標)
- ROE 中期目標15%以上
- 基幹システム 再構築(総投資10億円)
- 物流改革

中長期の戦略と見通し

VALUE INTEGRATED TECHNOLOGY



価値創造商社 への構造変化

1,454億円

1,600億円

- 技術（付加価値）＋グローバル展開
- 成長事業垂直立上げ、社内ベンチャー推進

2016.3

2017.3

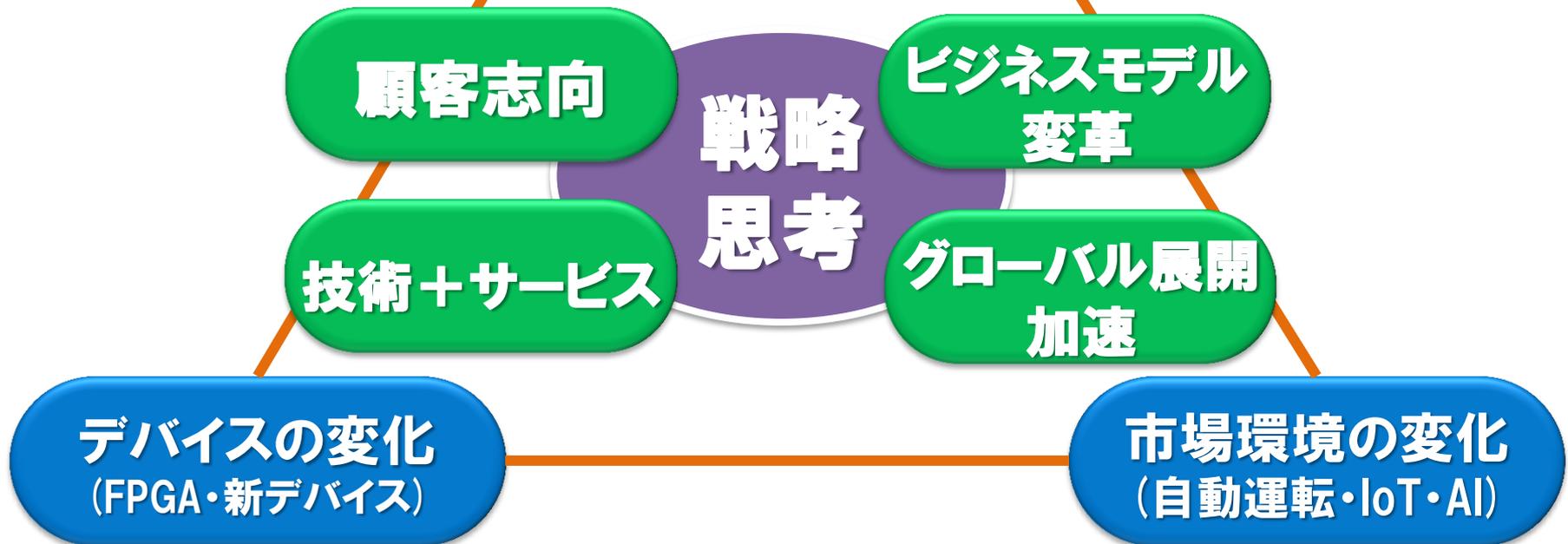
2018.3



デバイス



環境



付加価値ビジネスへの転換

顧客ニーズ・時代の変化

技術・サービス・製造

マルチメディア放送
アマネク ビジネス

モジュール
開発

+

機器提案

(開発技術)

(製造パートナー)



企画・製造

指紋センサー
モジュール

センサー
スウェーデン

+

モジュール化
韓国

(部品販売)

(モジュール販売)



製品企画・デザイン

コミュニケーションドール
ここくま

台湾
モジュール

+

製品
企画

(部品販売)

(開発マネジメント)



グローバル拠点網の実現とローカルビジネスの拡大

【欧州】グローバル展開
・欧州拠点出店

【中国・アジア】ローカル拡大
・韓国現地法人化

【北米・その他】
グローバル展開
・次世代ベンチャー発掘

Germany

Korea

・WPGとの連携強化 (VitecWPG)

海外売上比率40%超 ⇒ 50%以上
(中期目標)

太陽光発電の利益最大化と新たな事業展開



太陽光発電

農業との
融合



農電シェアリング

産学連携
地方創生



植物工場

電源の有効活用

新電力事業

バイテックソーラーエナジーでの一元管理（発電・保守メンテ）

太陽光発電 効率化・管理徹底による 利益最大化

◇稼働状況

高圧 29カ所 79MW

特高 2カ所 28MW

※2016年3月時点

◇2016年度末

Total 36カ所 約120MW



滝沢メガソーラー（約20.8MW）

国・地方自治体との連携、地元企業・農家との協業

完全閉鎖型
植物工場



2016.4
秋田県大館市

スーパー・コンビニ



2017.4
石川県七尾市

鹿児島県



バイテックファーム大館

バイオマス発電所併設

◇ 将来の見通しに関する注意事項

このプレゼンテーションに掲載されている当社の現在の計画、見通し、戦略は、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。

実際の業績は、様々な外部要因、内部要因の変化により、これらの業績見通しとは異なる結果となる可能性があります。

実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、世界・日本経済の動向、急激な為替相場の変動ならびに戦争・テロ活動、災害や伝染病の蔓延等があります。